

毎日60/703
アスベスト

汚染増大の可能性

環境省 業界などに抑制要請

環境省は二十二日、建築材（石棉）について、大気中を漂うアスベストの健康被害や自動車のブレーキ部品など広範な用途に使われ、大量に吸い込むと肺がんなどを引き起こすとされているアスベ

（石棉）について、大気中を漂うアスベストの健康被害は、蛇紋岩採石場周辺が二・三、ではもっと高く、ビル解体工場の平均濃度（大気二時間値）は一・〇四など、これら労働

省が作業環境で石綿肺や肺がんを発生させる限界として定めている前年度（二月中に二千本以下）の自分の一から二万分の一程度のレベル。同庁は「一般国民にとって危険性は小さい」としながらも、長期的には濃度が増大する可能性があるとみて関係省庁や業界に対し大気中への排出抑制を要請する。

アスベストは測定がむずしく、発がん性が国際的に認められていながら、わが国は大気汚染状況がつかぬままだった。環境省は五十年九月、アスベスト発生抑制検討会を設置し、東京、阪、福岡の三部府県を中心に三年がかりで大気中アスベスト濃度を約七百検について測定した。